

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立昭和小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

- | | |
|------|-----|
| ① 国語 | 54人 |
| ② 算数 | 54人 |
| ③ 理科 | 54人 |

5 留意事項

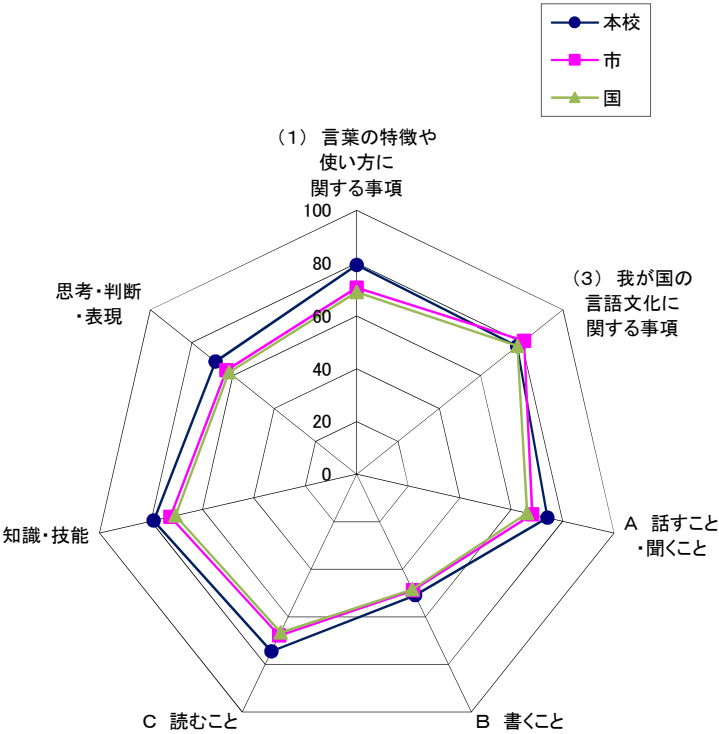
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立昭和小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	79.3	70.7	69.0
	(2) 情報の扱い方にに関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	77.8	81.1	77.9
	A 話すこと・聞くこと	74.1	68.2	66.2
	B 書くこと	50.9	48.9	48.5
	C 読むこと	74.5	67.9	66.6
観点	知識・技能	79.0	72.5	70.5
	思考・判断・表現	68.5	63.2	62.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

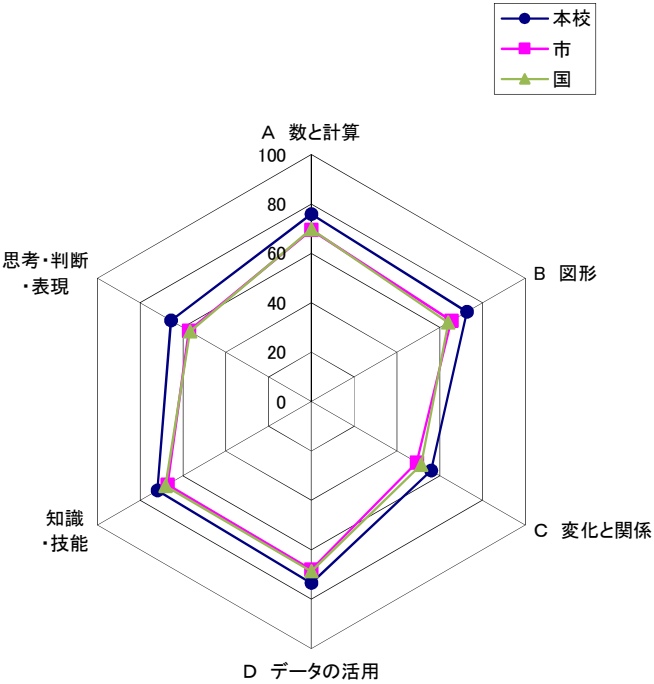
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	○全体の平均正答率は79.3%で、市の平均を8.6ポイント上回った。 ○学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う設問では、3問全てが市の平均正答率を約15ポイント上回っており、漢字を正しく書くことに良好な状況が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・新出漢字について習熟を図るとともに、今までに学習した漢字についてもミニテストやまとめのテストを実施することで、確実に習得できるようにする。 ・漢字のもつ意味を考えながら、文や文章の中で正しく使うことができるよう、繰り返し練習していく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	●手紙を書き直した際に気を付けた内容として適切なものを選ぶ設問の正答率は77.8%で、市の平均を3.3ポイント、全国平均を0.1ポイント下回った。文字の配列に注意して書くことに課題が見られる。	・書写の指導に注力し、行の中心や文字の大きさ、文字と文字の間隔などを意識して書くことができるよう、支援していく。 ・日頃のノート指導において、文字のバランスに気を付けて書くことを意識するよう声掛けをしていく。
A 話すこと・聞くこと	○全体の平均正答率は74.1%と、市の平均を5.9ポイント上回った。 ○話し合いの中にある質問の意図として適切なものを選択する設問の正答率は90.7ポイントで、市の平均を5ポイント上回った。話し合いの中で必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることに良好な状況が見られる。	・授業において、視点を与えた話し方や聞き方に関する活動を充実させ、目的に応じて質問できる力や質問の意図を適切に捉えて答えることのできる力を身に付けられるようにする。 ・朝の1分間スピーチや総合的な学習の時間における発表など、目的や意図を明確にして話す機会を定期的に設定し、個々の成長を促す。
B 書くこと	○全体の平均正答率は50.9%と、市の平均を2ポイント上回った。 ○意見文において、文章の初めの一文として適切なものを選ぶ設問では、市の平均を0.5ポイント上回った。 ○●意見文に対する感想を伝え合い、文章のよいところを見つける設問の正答率は44.4%であり、全国平均を上回ったものの、正答率が伸び悩んだ。	・文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文章を整えることに課題が見られるので、国語の授業だけでなく他教科の学習とも関連を図りながら、自分の立場や考えを明確にして文章を書く機会を意図的に設定する。 ・今後も作文指導だけでなく、新聞作りや学習の振り返りなどのいろいろな場面において、自分の考えや感想などを文章で表現する機会を増やし、目的に応じて文章表現の技能を高めていけるようにする。
C 読むこと	○全体の平均正答率は74.5%と、市の平均を6.6ポイント上回った。 ○物語の構成を捉え、叙述を基に登場人物の気持ちや相互関係を捉える設問では、県の平均を10ポイント上回った。 ○物語を読み、物語から伝わってくることをまとめて各設問の正答率は75.9%で、市の平均を5.1ポイント上回った。人物像や物語の全体像を想像することに良好な状況が見られる。	・日々の読書を奨励し、より充実した読書体験をもたせ、読解力を高めていく。 ・物語文の学習では、叙述や描写を基に、登場人物の気持ちや人物像を捉えられるよう、繰り返し指導していく。 ・説明文の学習では、文章と図表との結び付きを確認するなど、双方の理解を基に、文の主旨や内容を把握できるよう指導していく。

宇都宮市立昭和小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	75.9	69.5	69.8
	B 図形	72.7	65.4	64.0
	C 測定			
	C 変化と関係	56.0	49.3	51.3
	D データの活用	73.5	68.0	68.7
観点	知識・技能	72.0	67.3	68.2
	思考・判断・表現	65.6	57.3	56.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

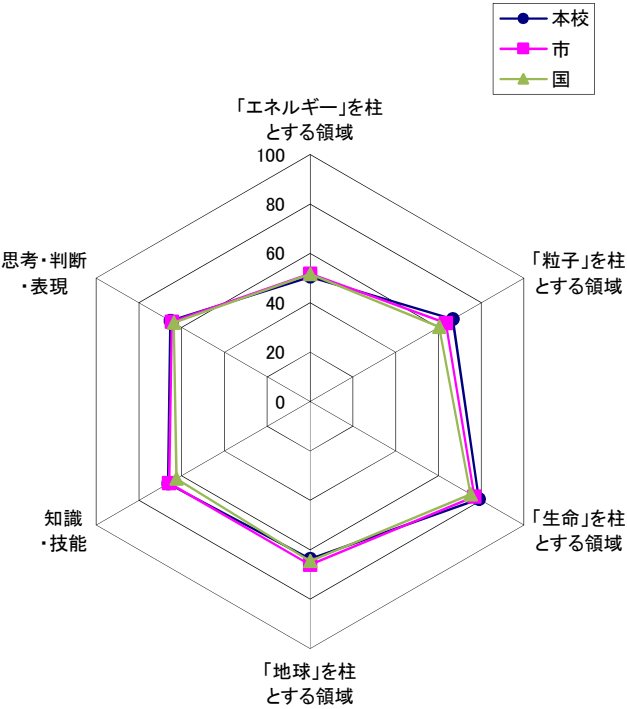
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	○全体の平均正答率は75.9%で、市の平均を6.4ポイント上回った。 ○14と21の最小公倍数を求める設問の正答率は79.6%で、市の平均を6.4ポイント上回った。 ●示された場面において目的に合った数の処理の仕方を考察する設問の正答率は40.7%であり、市の平均を5.4ポイント上回ったが、正答率は伸び悩んだ。	・少人数指導やドリル学習などで四則計算が着実に身に付いてきているので、計算の技能をさらに高められるように、今後も繰り返し学習して定着を図っていく。 ・目的に応じて数の処理の仕方を考察することに課題が見られるので、問題を図式化したり、根拠に基づいて自分の考えを説明したりする学習に力を入れ、日々の授業において継続して取り組んでいく。
B 図形	○全体の平均正答率は72.7%で、市の平均を7.3ポイント上回った。 ○示されたプログラムについて、正三角形を作図することができる正しいプログラムに書き直す設問の正答率は66.7%で、市の平均を13.2ポイント上回った。三角形の構成の仕方について考察し、記述することに良好な状況が見られた。 ○示されたプログラムでかくことのできる図形を選ぶ設問の正答率は61.1%で、市の平均を4.1ポイント上回った。	・図形の特徴を理解している児童が多いものの、それを活用する問題では、個人差が見られた。図形に関する既習事項を丁寧に復習し、性質を正しく理解し覚えた上で、問題に取り組めるよう支援していく。 ・授業の中で、図形を構成したり分解したりするなどの操作活動を多く取り入れ、図形に関する豊かな感覚を身に付け、実感を伴って理解できるようにしていく。 ・図形の意味や性質を基に、作図の仕方を考えたり、作図の仕方を順序よく説明したりできるように指導していく。
C 変化と関係	○全体の平均正答率は56.0%で、市の平均を6.7ポイント上回った。 ○百分率で表された割合と基準量から比較量を求める設問の正答率は72.2%で、全国平均を7.6ポイント上回った。 ●果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたときの、果汁の割合について選択する設問の正答率は20.4%であり、市の平均を2.8ポイント上回ったが、正答率が伸び悩んだ。数量が変化しても、割合は変わらない状況についての理解に課題が見られる。	・日常の具体的な場面に対応させながら割合について理解したり、図や式などを用いて基準量と比較量の関係を表したりするなど、実感を伴って理解できるようにする。 ・量と測定の領域では、様々な具体物について大きさを調べたり確かめたりする活動を積極的に取り入れて、量の大きさについての感覚を豊かにしていく。また、日常生活の様々な場面と関連付けて、算数への関心を高めていく。
D データの活用	○全体の平均正答率は73.5%で、市の平均を5.5ポイント上回った。 ○表の意味を理解し、全体と部分の係に注目して、ある項目にあたる数を求める設問の正答率は83.3%と高く、全国平均を8ポイント上回った。 ●目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取る設問の正答率は66.7%で、市の平均を1.7ポイント上回ったが、円グラフの特徴とそれらの用い方の理解に課題が見られる。	・日常生活の事象について、目的に応じて必要なデータを収集し、観点に基づいて分類・整理したり、データの特徴に着目して考察したりできるように、授業の中で繰り返し指導していく。 ・総合的な学習の時間や社会科の学習などで、データを処理する機会を意図的に設定し、目的意識をもってデータを分析する経験を積んでいけるようにする。また、可能な限りICTを効果的に活用し、分析活動を充実させていく。

宇都宮市立昭和小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	50.5	51.7	51.6
	「粒子」を柱とする領域	66.7	63.5	60.4
	「生命」を柱とする領域	78.9	76.8	75.0
	「地球」を柱とする領域	63.7	66.1	64.6
観点	知識・技能	66.4	65.9	62.5
	思考・判断・表現	65.3	64.6	63.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	○実験の結果から、問題の解決に必要な情報が取り出しやすく整理された記録を選ぶ設問の正答率は76.3%で、市の平均を3.3ポイント、全国の平均5.2ポイント上回っていた。 ●全体の平均正答率は50.5%と、市の平均を1.2ポイント下回っていた。 ●問題に対するまとめから、実験の結果を基にしてその根拠を書く設問の正答率は27.8%で、市の平均を4.5ポイント、全国の平均を7.3ポイント下回っていた。	・問題の解決にはどんな情報が必要なのかを考えて実験に取り組むことができていますが、繰り返し練習問題を解き、基礎基本の定着を図りたい。 ・実験の結果を基にして根拠を考える問題の正答率が低かったので、授業で実験を行い結果をまとめる際にも、根拠を意識できるように指導していく。
「粒子」を柱とする領域	○全体の平均正答率は66.7%と、市の平均を3.2ポイント上回っていた。 ○凍った水溶液について、試してみたいことを基に見出された問題を書く設問では、正答率が51.9%で、全国の平均正答率を12.6ポイント上回った。 ●液体の体積をはかり取る器具の名称を答える設問の正答率は70.4%で、市の平均を6.1ポイント下回っていた。	・実験を行う際は、児童の試してみたいという思いを大切に、意欲的に取り組めるような授業の展開をしていくと同時に、調べたい内容を導くためにはどのような実験をして、その結果から何が分かるかという科学的思考が育つような授業展開を工夫していく。 ・実験の際には、使用する器具について毎回確認することで、知識の定着を図りたい。
「生命」を柱とする領域	○全体の平均正答率は78.9%と、市の平均を2.1ポイント上回っていた。 ○カブトムシの育ち方と食べ物の特徴から、表のどこにあてはまるかを選ぶ設問の正答率は81.5%で、市の平均を1.7ポイント、全国の平均を5.4ポイント上回っていた。 ○本領域についてはどの設問の正答率も市、全国ともに上回っており、良好な状況が見られる。	・植物や動物の成長について、観察したことを十分理解できている児童が多い。これから学習する人体についての学習では、実際には観察できない内容もあるため、映像を見せたり児童に図や絵、表などに表現させたりするなど、ICTを活用することで、理解を深められるようにしていく。
「地球」を柱とする領域	○夜の気温の変化について、他者の予想が正しい場合に得られる結果を表したグラフを選ぶ設問の正答率は70.4%と、市の平均を2.5ポイント、全国の平均を5.9ポイント上回っていた。 ●全体の平均正答率は63.7%と、市の平均を2.4ポイント下回っていた。 ●結果から言えることは、提示された結果のどこを分析したものなのかを選ぶ設問では、正答率は38.9%と低く、全国の平均正答率も6.6ポイント下回っていた。	・グラフの正しい読み取り方を理解している児童が多いので、引き続き、予想や結果とグラフを関連付けられるよう、授業の中で指導していく。 ・結果を考察する際には、結果のどこを分析するとどんな考察ができるのかを明確にし、児童が意識できるよう声掛けをしていく。

宇都宮市立昭和小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「朝食を毎日食べていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の肯定的回答は、すべて全国・県の平均を上回っている。このことから、規則正しい生活の大切さを理解しており、好ましい生活習慣が身に付いていることがうかがえる。引き続き、家庭への声掛けをしていきたい。

○「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」については、肯定的回答が全国・県の平均を上回っており、家庭で約束をきちんと守って利用していることがうかがえる。

○「自分には、よいところがあると思いますか」では、当てはまると回答した児童の割合が全国・県の平均を上回っている。しかし、当てはまらないと回答した児童もわずかに見られた。児童が自分のよさに気付けるように、学習や生活の様々な場面において、互いのよさを認め合う機会を増やしていきたい。

○「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の肯定的回答は100%である。引き続き、児童一人一人のよさを認めるとともに、積極的に称賛していきたい。

●「将来の夢や目標を持っていますか」の肯定的回答は、全国・県の平均を下回っている。キャリア教育のより一層の充実を図り、将来を見据えて学んでいける環境を整えていきたい。

●「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか」の肯定的回答は、全国の平均を上回っているものの、県の平均を下回っている。たとえうまくいかなくても、挑戦すること自体が自分の成長につながることを伝えるなど、一人一人が失敗を恐れずにチャレンジしていける環境を整えていきたい。

○「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」では、肯定的回答が全国・県の平均を大きく上回っている。今後も、児童一人一人が有意義な学校生活を送れるよう、教職員一同連携を図って見守ってきたい。

○「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか」では、30分以上読書をしている児童の割合が全国・県の平均を上回っている。また、「読書は好きですか」の肯定的回答も、全国・県の平均を上回っている。今後も引き続き読書に親しめるように、学校図書館や地域の図書館の利用を推進するなど、指導を充実させていきたい。

○「今住んでいる地域の行事に参加していますか」、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」に対する肯定割合は、ともに全国・県の平均を上回っている。このことから、地域の方々の協力や支援に感謝し、社会の一員として自覚をもって生活していることがうかがえる。

○「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」では、肯定的回答をした児童が9割ほど見られ、全国・県の平均を上回っている。引き続き、話し合い活動を推進し、協働的に学ぶ力を育てていきたい。

●「国語の勉強は好きですか」、「国語の授業の内容はよく分かりますか」の肯定的回答は、全国・県の平均を上回っている。しかし、「算数の勉強は好きですか」、「算数の授業の内容はよく分かりますか」の肯定的回答は、わずかではあるが全国・県の平均を下回っている。このことから、教科の好き嫌いが、授業内容の理解に大きく関係していることがうかがえる。算数の苦手意識を払拭できるよう、少人数指導や個別支援に力を入れるなど、指導の充実を図りたい。

宇都宮市立昭和小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・自ら考え、分かりやすく表現できる児童の育成	目的や条件に合った文章を書くために、提示された条件に即した文章を書く場を意識的に設定する。	国語科の「書くこと」についての平均正答率は50.9%と、市の平均を2ポイント、全国の平均を2.4ポイント上回っている。一方、理科の「エネルギー」を柱とする問題において、実験の結果を基にして、その根拠を考える問題の正答率が27.8%で、市の平均を4.5ポイント、全国の平均を7.3ポイント下回った。また、「地球」を柱とする領域について、実験の分析結果の根拠を答える問題では、正答率が38.9%と低く、全国の平均から6.6ポイント下回った。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・根拠をあげて自分の考えを述べたり、挙げられた考えの根拠を考えることに関する問題の正答率が低い。	自分の考えを伝える際、その根拠となる事項や情報を明確にすることを意識的に指導する。	資料を活用して自分の考えを伝える学習では、自分の伝えたいことに応じた資料を選択したり、目的に応じてグラフや表などを読み取ったりする学習を丁寧に行う。 学習したことをまとめる活動では、学年に応じて、キーワードや条件などを設定して書くようにする活動を取り入れることにより、自分の考えを分かりやすく伝えるスキルを身に付けさせる。 また、自分の考えを書いたり述べている際には、その根拠となる事項を明確にすることを、授業の中で意識して扱うようにする。